



Nakamichi

RX-505/RX-303

Unidirectional Auto Reverse Cassette Decks

RX-505 Unidirectional Auto Reverse Cassette Deck



RX-303 Unidirectional Auto Reverse Cassette Deck



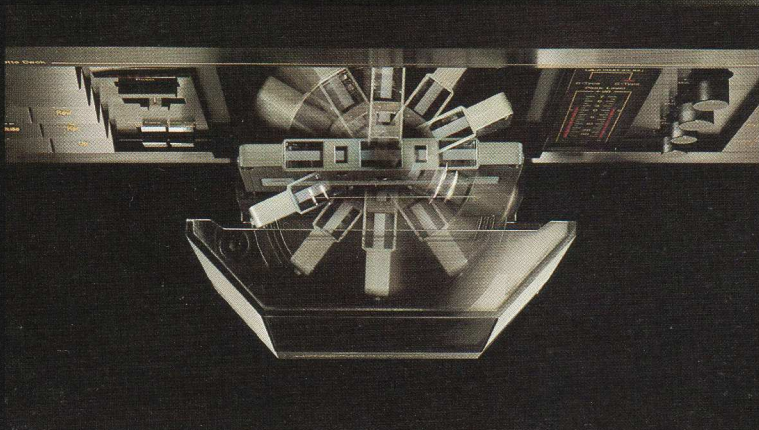
もう、誰も追いつけないか

RX-505 Unidirectional Auto Reverse Cassette Deck



1 Nakamichi Reference Technology ユニディレクショナル・オートリバーシメカニズム

オートリバーシメカニズムという、テープエンドで走行方向を反転させるのがこれまでの常識でした。しかし、往復の走行特性を均一化するのは至難の技。テープトランスポートの精度を極限まで追いつ込んで、リバーシ時にどうしてもアジマス(テープとヘッドの垂直性)が狂ってしまいます。そこで、発想を文字通り180°回転することでこの問題を解決したのが、ユニディレクショナル・オートリバーシメカニズム。リバーシしてもアジマスのずれのありえない、まさに逆転の発想です。

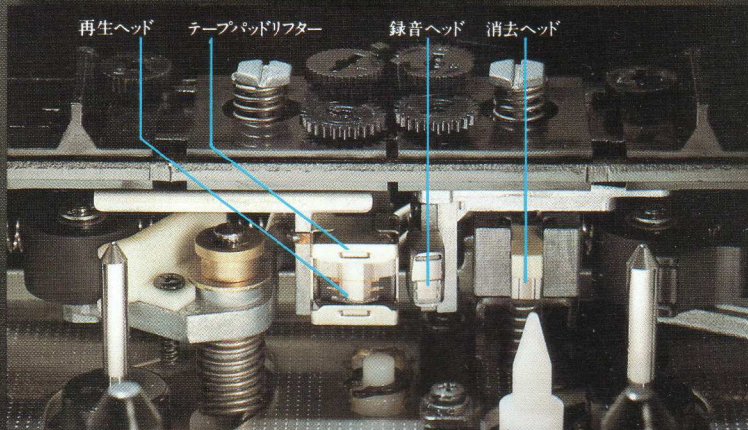


ユニディレクショナル・オートリバーシメカニズムのカセット反転動作

2 Nakamichi Reference Technology ディスクリット3ヘッドシステム(RX-505)

(完全独立方式)
Nakamichiが「3ヘッド」といえば、必ずディスクリット(完全独立)3ヘッドを意味します。つまり、消去、録音、再生の各ヘッドが構造的にセパレートされた方式です。モデル1000以来、なぜNakamichiはディスクリット3ヘッドを頑固に守り通しているのか? その理由は、ただひとつ。20kHzを超える超高域まで完璧に再生するためです。「20kHz限界説」を打ち破ったのが、このディスクリット3ヘッドシステムといっても過言ではありません。

※RX-303は、センダスト3層ラミネートコアの録再ヘッドを採用。ディスクリット3ヘッドシステムに迫るワイドな周波数特性を実現しています。



Nakamichi独自のディスクリット3ヘッドシステム

Nakamichiの“極限”。



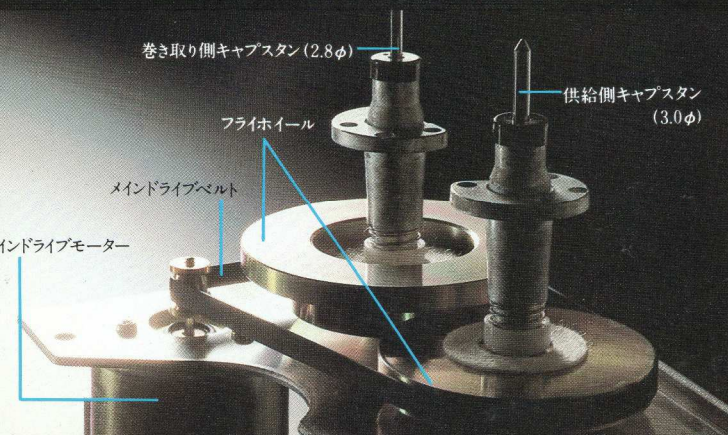
録再オートリミースで世界初の完全独立3ヘッド/
ダブルキャプスタンを達成した、RX-505。
そして、その2ヘッド・バージョンRX-303。

“Nakamichiの夢”、ここに実現。

まさに、夢の実現です。録再オートリミースでは世界で初めて完全独立3ヘッド/
ダブルキャプスタンのコンストラクションを達成した、ユニディレクショナル・
オートリミースデッキRX-505、およびその2ヘッド・バージョンRX-303 ——。
往復両方向できわめつけのワンウェイデッキそのままのクオリティを実現した、初めての
録再オートリミースデッキの誕生です。テープ走行を反転させ、コンビネーションヘッドの
回転により往復録再を行う——。デッキマニアの方々が一抹の不安を拭い
きれないのと同様、Nakamichiもこうした従来の3ヘッド録再リミースの行き方に、
大きな疑問を感じてきました。いや、あえて断言するなら、従来方式ではクオリティの向上に
どうしても超えかけない壁があると言えます。この壁を打ち破り、3ヘッド録再リミースの
理想に迫るため、Nakamichiは下に示すように4つのリファレンステクノロジーを設定し、
RX-505でそのすべてをインテグレートしました。もちろん、2ヘッド・タイプながら、
RX-303もそのクオリティにおいてRX-505に一步もひけをとることはありません。しかも、
両モデルとも機能面を大幅に充実。デッキを使う立場に立った真に
実用的な機能を重装備して、リミース機構の便利さをフルに生かしています。
あのモデル1000以来のNakamichiの夢——“完全独立3ヘッド/
ダブルキャプスタンの録再オートリミース”を実現するうえで、
Nakamichiのエンジニアたちがぶつかった問題点をご紹介しながら、
4つのリファレンス・テクノロジーがなぜ3ヘッド録再リミースの
“究極の指標”であるのかをご説明してまいります。

3 Nakamichi Reference Technology クローズドループ・ダブルキャプスタン

の音質を支える“要”として、走行メカニズムの見直しが行われていますが、
Nakamichiから見るとまだまだ不十分な点が散見されます。Nakamichiの
クローズドループ・ダブルキャプスタンは、左右のキャプスタンには含まれたループ内から
テープガイドやテープヘッドなどの音質劣化要因を排除。テープ走行を2本の
キャプスタンだけでコントロールする最も理想に近い方式です。
しかも、左右のキャプスタンの直径をわずかに変えて、
ラッターの発生も大幅に低減しています。



型フライホイール採用のクローズドループ・ダブルキャプスタン

4 Nakamichi Reference Technology ローデイスレーションDCアンプ

録音・再生アンプに全段±2電源方式DCアンプを搭載。録音・再生イコライザー
回路をそれぞれヘッドにダイレクトカップリングし、全高調波歪率0.005%以下
という最高級プリアンプなみの低歪率化を図っています。
これは、ドルビーB/C NRの利点をフルに生かすためにも不可欠のこと。
さらに、RX-505はいま最も高性能なドルビーICをエンコード、デコード
それぞれ専用で使用。しかも、ほぼ完璧に特性の揃ったものを1ペアとして、
エンコード、デコード特性のベストマッチングを追求しています。

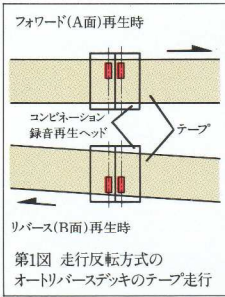


録音・再生アンプ回路とドルビーB/C NR回路(RX-505)

ワンウェイデッキのクオリティがそのまま 録再オートリバースに生かせる。逆転の発想、 ユニディレクショナル・オートリバースメカニズム

問題1. リバースすると、どうしてもアジマスが狂う。

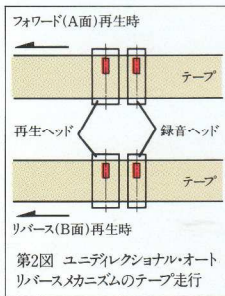
従来のテープ走行反転方式のオートリバースデッキの最大の問題は、リバース走行時のアジマスズレによる音質劣化。「テープ走行を反転させると、とたんに高域が出なくなつた」——こんな苦い経験をお持ちの方も多のではないでしょうか。フォワード側とリバース側の走行特性を一致させるのは事実上不可能に近く、それゆえ第1図のようにA面でアジマスが合っていると、B面では走行が変わるためどうしてもアジマスが狂ってしまうのです。



第1図 走行反転方式のオートリバースデッキのテープ走行

ユニディレクショナル・オートリバースメカニズムのもつ革新的意義。

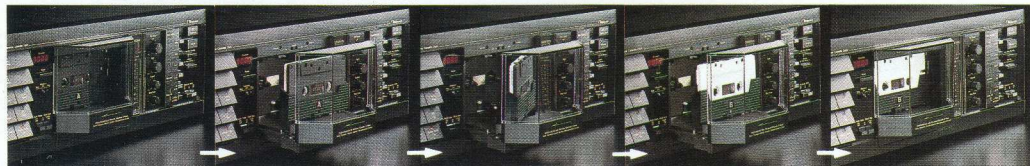
●リバースしても、アジマスズレのない録音・再生が可能：人間の



の手によるカセットのイジェクト、反転、ロード操作をメカニズムに置き換えたわけですから、テープトランスポートはワンウェイデッキそのもの。テープは往復とも全く同じテープパスを走ります。それゆえ、第2図のように、A面とB面でテープの走行状態は全く同一。原理的にアジマスズレはありません。

●ワンウェイデッキのクオリティがそのまま生かせる：この点もユニディレクショナル・オートリバースメカニズムの見逃せない特徴。そして、走行反転という制約がトランスポートにないため、テープ走行性能をぎりぎりまで追いつめる。これは、絶大なメリットです。
●当然、周波数特性はA面とB面でピタリと一致：第3図のようにA面/B面とも20Hzから20kHzまで一直線に伸びたすばらしい周波数特性が得られています。

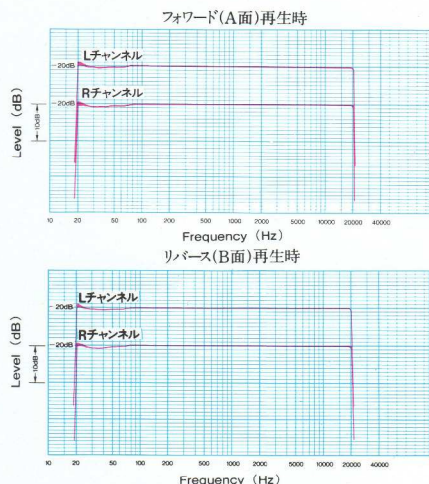
ユニディレクショナル・オートリバースメカニズムのカセット反転動作



スムーズかつスピーディなカセット反転動作。

マイクロプロセッサ制御のモータードライブによるカセット反転動作は、下の連続写真のようにスムーズかつスピーディ。反転動作が終了すると、カセットハーフはカセットホールドアームでリフレンズ位置にしっかりと押さえつけられ、反転メカニズムからは完全に独立します。また、カセットコンパートメント開閉時の万一の事故を防ぐため、物がはさまつたり、ぶつかつたりした場合、自動的に障害を回避するフルプルーフ設計を採用。メカニズムのシンブルさとヘビーデューティー設計により、トラブル発生への心配はありません。

※リバース動作の検出は、録音時にはテープエンドでリール軸が停止した時に行われます。再生時も通常はテープエンドで反転しますが、SkipスイッチをOnにしておくと、40秒以上のブランクがあった場合、テープエンドまで早送りして反転します(ブランクスキップ機構)。録音・再生時とも反転動作を完了するとリーダーテープ部をスキップして、録音または再生を続けます。



第3図 RX-505再生周波数特性

Deck: RX-505 / Level: -20dB / PB Eq: 70μs / NR: off / Tape: ZX (Metal)

20kHz再生を完璧に保 3つのヘッドを完全にセ ディスクリット3ヘッドシステ

問題2. ヘッドを回転させなくてはならない。

従来のテープ走行反転方式では、コンビネーションヘッドを回転させるロータリー方式を採用して3ヘッド化を行って、回転させるためにどうしてもガタが必要。構造的に定になりがちです。リバース走行時のアジマスズレも100%できず、20kHzを完璧に再生するには少々無理がある。

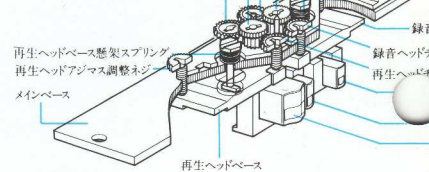
問題3. コンビネーションヘッドしか使えない。

●磁気的なアジマスズレを解決できない：コンビネーションヘッドの最大のネックは、録音ヘッドと再生ヘッドが一体化するため、それぞれのアジマス微調整ができないこと。それぞれの機械的なアジマス(両ヘッドの平行度)を精密に調整したとしても、テープ走行時におこる磁気的なアジマスズレ、高域特性の劣化を解決できません。この磁気的なアジマスズレを解消するには、実際に録音/再生テストを行って録音ヘッドのアジマスをサブミクロンオーダーで追い込む必要が欠かれません。Nakamichiがディスクリット3ヘッド方式を20kHz再生のベストの方法と考える第一の根拠が、これです。

●クロスフィード現象が発生しやすい：クロスフィードとは、再生同時モニター中に録音ヘッドが飛び出す境界が耳に直接飛び込む現象。高域ほど影響が顕著に現われ、場合によってはレピーCタイプNRの誤動作を招いたり、シールドプリアンプが聴こえたりして、録音モニターの音質が劣化します。コンビネーションヘッドは、録音ヘッドと再生ヘッドの間隔が狭いため、このクロスフィード現象が比較的に多くなります。これでは、録音同時モニターができる3ヘッドの一大メリットも半減といえます。

3つのヘッド位置を3次元的にシビアに調整

録音/再生ヘッドの独立した微調整で磁気的なアジマスズレを解決できる、クロスフィード現象が発生しにくい。こうした録音ヘッドベース懸架スプリング、録音ヘッドアジマス調整ネジ、録音ヘッド高調整ネジ、再生ヘッド高調整ネジ、再生ヘッドリット調整ネジ



第4図 ディスクリット3ヘッド・マウントベース構造図



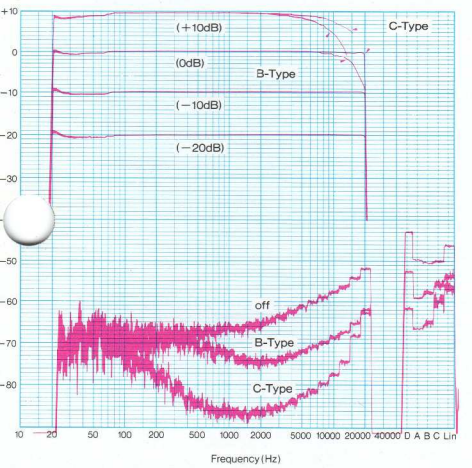
はじめの、Nakamichiの結論。

た

3ヘッドシステムならではの優位性をフルに発揮させるには、ヘッドの位置調整に万全を期す必要があります。そこで活用するのが、第4図のNakamichi独自のアライメント機構です。まず、3つのヘッドは、ダブルキャプスタンによって厳密にコントロールされたテープの流れを乱さない場所を選んで個々に置かれています。そして、テストテープを走らせながら、ハイト(高さ)、アジス、チルト(テープ面に対する前後の傾き)を各ヘッドごとに3次的にコントロール。さらに、デプス(ヘッドの突っ込み量)も別の調整カムで最適に調整。まさにサブマイクロオーダーの超高精度で取り付け位置調整が行われていくわけです。非常にドリケートで複雑な工程を行っているわけですが、このことから20kHz再生に力を入れるNakamichiの意気込みが伝わってきます。これだけのことは、聞いてみるのではありませんか。

30年にわたるノウハウの結晶、Nakamichiの高性能ヘッド。

Nakamichiは創立以来、磁気材料の研究を続け、磁気ヘッドづくりには30年以上にわたって独自のノウハウを積み上げてきました。それだけヘッド技術でも最先端の技術を結実させており、その成果はRX-505/RX-303の各ヘッドにも存分に生かされています。RX-505の録音ヘッド、再生ヘッドには音質的にも優れた結果が得られたクリスタロイという素材をコアに使用。コアに一切の物理的なストレスを与えないNakamichi独自の加工技術により、素材の良さは最大限に生かされています。また、耐摩耗性についても、テープとの接触面に独特の工夫を凝らして、10,000時間以上のロングライフを実現(当社実験値)。再生ヘッドは、モデル1000以来採用してきた高硬度のスーパーリックダイキャスト製のヘッドベースに加工し、ホールドされ、第5図のようにカセットの限界を打ち破る20~20,000Hz±3dB(RX-505)の驚異的な特性を得ています。



第5図 RX-505録音再生周波数特性/ノイズ分析

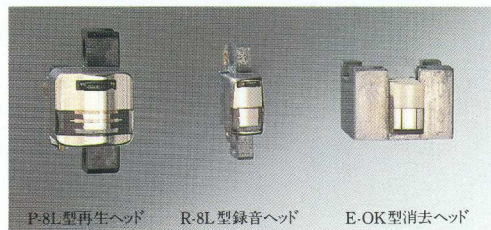
Deck: RX-505 / Tape: ZX (Metal) / PB Eq: 70μs / MPX Filter: off

再生ヘッド: 0.6ミクロンという超ナローギャップによりワイドレンジ再生を可能とした、クリスタロイラミネートコア採用の小型ヘッドです。さらに、低域のうねり(コンターエフェクト)を抑えるノイズボリック(双曲線)形状をとり、超低域までフラットな特性を誇ります。

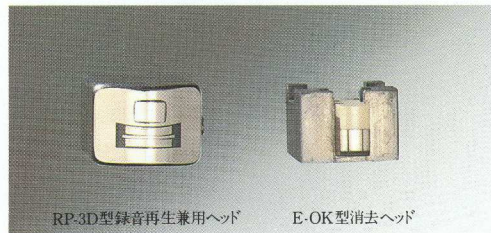
録音ヘッド: 再生ヘッドと同様、クリスタロイコアのラミネートタイプ。3.5ミクロンのワイドギャップで、メタルテープなど高保磁力

のテープを使用したときにもシャープなクリティカルゾーンが得られ、また大きなマイアス電流をかけた場合も磁気飽和や磁気歪をおこさず、広ダイナミックレンジの録音が可能です。

●消去ヘッド: フェライトコアと先端部に飽和磁束密度の高いセンダストコアを使用したダブルギャップ型。優れた消去効率を獲得し、特に低域周波数の消し残しを防いだため、音の透明感が向上しています。



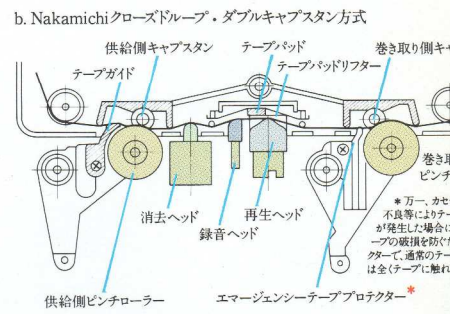
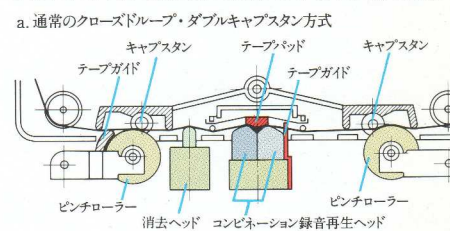
[2ヘッドバージョン/RX-303] 録音再生兼用ヘッド: 高い飽和磁束密度を誇り、録再生兼用ヘッドの素材として最適なセンダストをコア材に使用。ヘッドギャップを20kHz再生の限界である1.2ミクロンに設定し、録音時にも強力な磁界を形成します。また、加工の難しいセンダストを3層ラミネートとしており、テイスクリート3ヘッドシステムに迫るワイドな周波数特性と低歪率化を実現しています。消去ヘッドは、RX-505と同じものを使用。



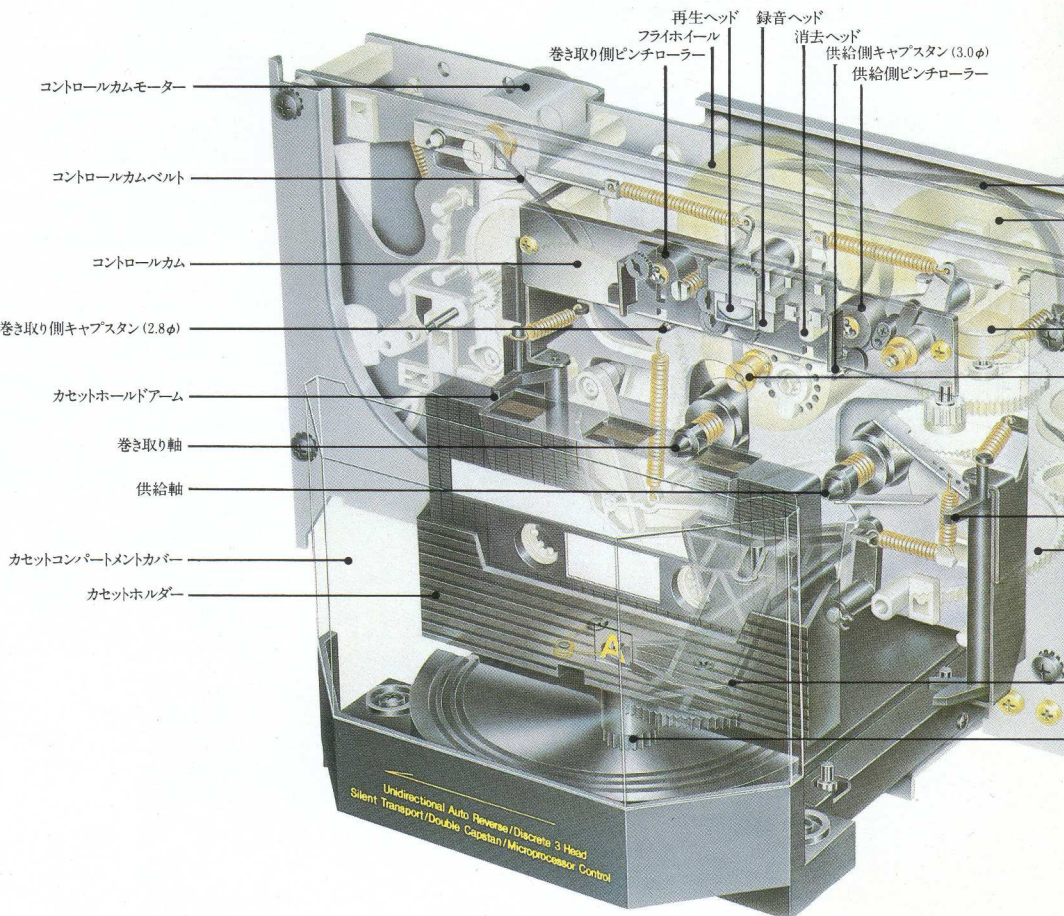
2本のキャプスタンだけで厳密にコントロールする。Nakamichi クローズドループ・ダブルキャプスタン方式

問題4. ダブルキャプスタンが音を悪くすることもある。

ワンウェイデッキにも当てはまるのですが、ヘッドに設計されたクローズドループ・ダブルキャプスタンはかえって音質を劣化させる場合があります。意外に思われるかもしれませんが、これは厳然たる事実。左右のキャプスタンがつり出すクローズドループ内径位置が最適に制御されていないものは問題外としても、例えばaのようにクローズドループ内にテープガイドやテープフックがあると、走行にもなってテープがこすられ、変調ノイズが発生。上のクオリティを大きく損なってしまうのです。しかも、変調ノ



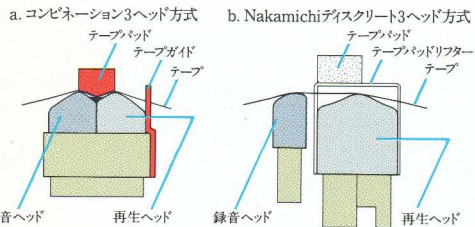
第6図 クローズドループ・ダブルキャプスタン方式走行概念



X-505 Unidirectional Auto Reverse Cassette Deck ¥188,000

先行を Nakamichi独自の システム

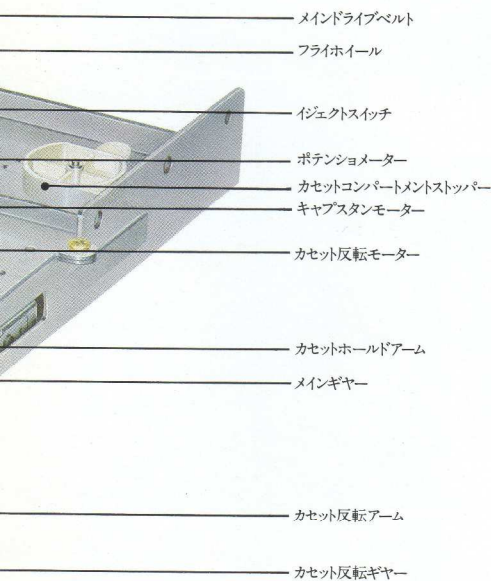
り、テープガイドは「ワカメ現象」といわれるテープエッジの傷みやカールの原因となり、またテープヘッドは圧着力が不均一になりがちで、第7図aのようにテープを安定してヘッドに圧着できず、その結果アジマスズレをひきおこすおそれがあります。テープガイドやテープヘッドが音質劣化の原因となることかおわかりいただけますでしょうか。



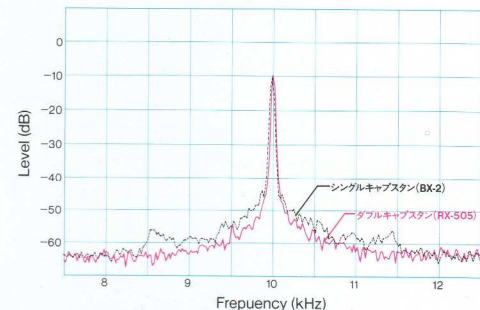
第7図 3ヘッド方式とテープヘッドとの関係概念図

左右のキャプスタン径を変え、フラッター低減をめざした周波数分散型ダブルキャプスタン*

は、Nakamichiのクローズドループ・ダブルキャプスタンはどうなっているのか? 第6図bをご覧ください。左右のキャプスタンの間にあるのは3つのヘッドだけ。テープガイドもテープヘッドも取り払っているのです。テープヘッドをキャンセルするのかが第7図bの再生ヘッドに設けられた独自のテープヘッドリフター。こうしてRX-505/RX-303はヘッド近辺のテープ進行を2本のキャプスタンだけで完璧に近いところまでコントロールしているのです。キャプスタンの平行度など、メカニズムの精度によほどの自信がなくてはこれほど徹底することはできません。さらに、フラッター周期の重なりを避けるため、左右のキャプスタン径をテイクアップ側2.8φ、サブライ側3.0φとわずかに変え、サブライホイールの直径も変えたNakamichiオリジナルの周



波数分散型ダブルキャプスタンを採用。音楽の基音を変調し、透明感を損なうフラッターの発生は大幅に抑えられています。また、テイクアップ側のキャプスタンを0.2%だけ速く回転させ、これを0.05%以下の高精度でコントロールすることで最適なループ内テンションとヘッドタッチを実現。こうして精度の極限に挑んだ結果、テープガイドやテープヘッドの助けを借りなくてすんだわけですが、ヘッド近辺にテープをこする部分がないことから第8図のようにきわめて優秀な変調ノイズ特性が得られています。①外乱に強い、②変調ノイズが低い、③テープの巻き始めから巻き終わりでテンションが一定のため音が安定するなど、クローズドループ・ダブルキャプスタンのメリットを最も理想的に生かしたNakamichiだけの方式。無論、その成果は実際に音を聴いていただければ一聴瞭然のはずです。Nakamichiのテープトランスポートはこれからも「世界最高」であり続けると確信します。



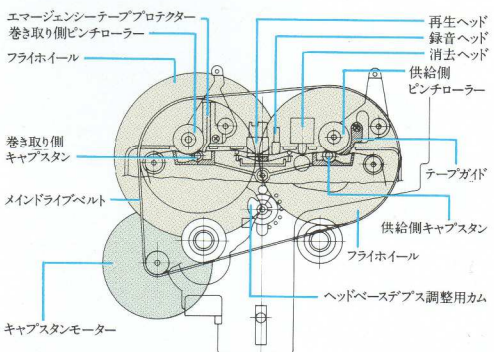
第8図 RX-505、BX-2変調ノイズ分析の比較
Eq: 70μs / Freq: 10kHz / Tape: ZX (Metal)

微振動を吸収する共振制動型シャーン*

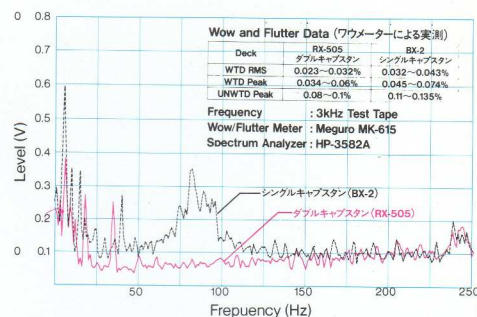
モーターその他の回転体から生じる微振動がテープに伝わると、フラッターが増加してしまいます。そこで、RX-505/RX-303はシャーン材料に鉄と比べて振動減衰特性の大きなアルミニウムアロイを使用。これに樹脂をアウトサートした独自の柔構造設計の共振制動型シャーンを採用して、音に有害な微振動を効果的に吸収しています。

PLLサーボモーターによる完成度の高いベルトドライブ方式。

コギングが発生するようなD・Dモーターはかえってフラッターを増加させるというのが、Nakamichiの一貫した主張です。RX-505/RX-303は、メインモーターに回転精度が高く、ドリフトも少ないPLLサーボモーターを採用。フラッター成分を吸収し、フライホイール効果も十分もたせられるベルトドライブ方式の利点を生かした、完成度の高い駆動系を形成しています(第9図)。精緻をきわめたクローズドループ・ダブルキャプスタンと相まって、ワウ・フラッター特性(第10図)はめざましく向上しています。



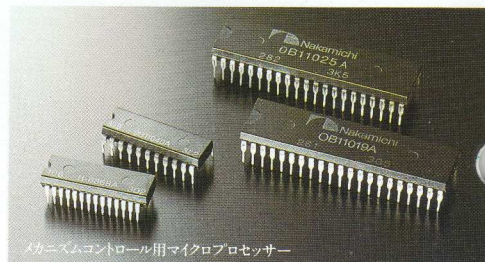
第9図 ベルトドライブ・ダブルキャプスタンシステム構造図



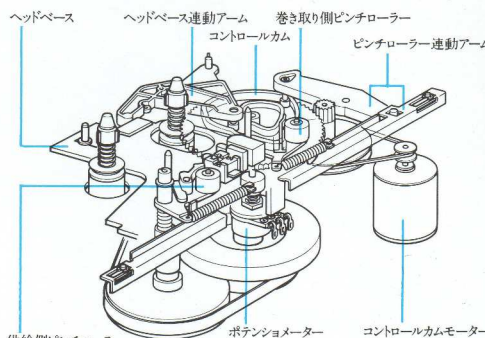
第10図 RX-505、BX-2ワウ・フラッター周波数分析の比較 (UNWTD Peak)

静粛かつ俊敏な動作を実現した、サイレントメカニズム*

サイレントメカニズムも、Nakamichiのオリジナル方式。プランジローラーを一切用いない、マイクロプロセッサ制御の専用モーターがカムを駆動して、操作音が小さく、スピーディなメカニズム動作を実現しています。マイクロプロセッサは処理速度の速い4ビットN-MOSタイプ。第11図のようにコントロールカムにポテンシオメーター(角度センサー)が取り付けられており、メカニズムの動きがリアルタイムにマイクロプロセッサへ伝えられ、これにもとづいてモーターへコントロール信号が送られます。こうしたメカとマイコンが対話する機構により、例えばPlay動作も最初はずばやく立ち上がり、テープに近づくとスローダウンし、ソフトテープにタッチするといふ2段階変速方式、それもまずヘッドがテープに触れてから左右のピンチローラーがキャプスタンに圧着されるという絶妙なコントロールが可能になっています。こうした動作により録音スタート時のクリック発生が抑えられ、ループ内テンションもPlay開始と同時に安定化。テープへのダメージもなく、ヘッド部分の微妙な調整に狂いが生じにくくなっているのも見逃せない点です。



メカニズムコントロール用マイクロプロセッサ



第11図 トランスポートコントロールシステム構造図

*周波数分散型ダブルキャプスタン、*テープヘッドリフター、*共振制動型シャーン、*サイレントメカニズムは、いずれもNakamichiが世界で初めて開発し、カセットデッキに搭載したオリジナル機構です。

Unidirectional Auto Reverse
Cassette Deck **RX-30**
¥158,000
(2ヘッドバージョン)

RX-505/RX-303 機能比較

機能	RX-505	RX-303
ユニディレクショナル・オートリバーシメカニズム 往復両方向で、アジマスズレのない録再オートリバーシを初めて可能としました。	●	●
テイスクリット3ヘッドシステム 3つのヘッドを完全に独立させて、20kHz再生を完璧に保証。	●	●
クローズドループ・ダブルキャプスタン 2本のキャプスタンだけでテープ走行をコントロールするNakamichi独自の方式。	●	●
ローディストーションDCアンプ 全段±2電源方式によるDCアンプ。低歪設計を貫きました。	●	●
オートフェード機構 リバーシ動作の前で自動的に録音フェードアウト/フェードイン。	●	●
オートレックスタンバイ機構 録音を始めるときや、やり直す時、ワンタッチでレックスタンバイ。	●	●
オートレックポーズ機構 45秒以上の無信号状態が続くと自動的に録音を中断しレックスタンバイになります。	●	●
プログラムシーク機構 前後の曲の頭出しが手軽に行えます。	●	●
キューイング機構 オープンリール並みの感覚で聴きたいフレーズを探し出せます。	●	●
ダブルスピードマスターフェーダーコントロール ワンタッチでフェードイン、フェードアウトをコントロールできます。	●	●
ダイレクトオペレーション機構 イジェクト状態から直接Play、FF、Rewのモードに入ります。	●	●
テープたるみ防止機構 カセットテープ装着時に動き、カセットハーフ内のテープのたるみを取り除きます。	●	●
ブランクスキップ機構 再生中、40秒以上の無音部分が続き、テープエンドまで早送りされてリバーシ再生。	●	●
レックミュート 録音中、ワンタッチで無音部分がつかれます。	●	●
後追い録音 再生中に走行状態のまま、ダイレクトに録音モードへ移行できます。	●	●
メモリーストップ/プレイ機構 テープカウンターの°0000°に確実に連動して、ストップ/プレイを行います。	●	●
タイマーレック/プレイ機構 一般オーディオタイマーを使用して、留守録音、目覚まし再生が行えます。	●	●
ドルビーB/CタイプNR 高周波数帯域で約110dBのノイズ低減効果のあるBタイプと、2~8kHzの聴感上ノイズを最も感じやすい帯域で約20dBノイズを低減するCタイプが選択可能です。	●	●
サブソニックフィルター ディスクレコードの録音などで、ランブルその他の低域共振による変調を防ぎます。	●	●
MPXフィルター FM信号に含まれる、19kHzパイロット信号を除去し、ドルビーNR回路の誤動作を防ぎます。	●	●
バイアス微調整 テープに合わせて、バイアスを微調整できます。	●	●
3ポジションテープセレクター&2ポジションイコライザースイッチ	●	●
L、R独立録音レベルコントロール	●	●
アウトプットボリューム	●	●
4デジタルLEDテープカウンター テープカウンターはLEDによる4桁表示。°0000°を基点に°9999°までプラスカウント、°-999°までマイナスカウントを行います。	●	●
ワイドレンジLEDピークレベルメーター -40dB~+10dBのワイドスケールLEDピークレベルメーターで、録音レベルの設定を容易にしています。	●	●
リモートコントロール機能(別売RM-15 使用)	●	●

●規格および外観は改良のため予告なく変更することがあります。●ドルビーおよび□マークはドルビー研究所の登録商標です。●ドルビーシステムは、ドルビー研究所からの実施権に基づいて製造されたものです。●著作権法により放送やディスクからの録音は個人だけの使用にとどめてください。●このカタログの内容についてのお問い合わせは販売店か直接当社におたずねください。●カセットデッキの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切り後6年です。

ナカミチ株式会社 〒187 東京都小平市鈴木町1-153

東京事業所/国内営業部 〒160 東京都新宿区西新宿2-7-1 新宿第一生命ビル11F Tel.(03)342-4477
 札幌営業所 〒060 札幌市中央区大通り西14-1 五輪ビル1F Tel.(011)271-3744
 福島営業所 〒960-11 福島市下島渡字新町西6-1 Tel.(0245)46-8382
 名古屋営業所 〒450 名古屋市中村区名駅南1-28-19 名南クリヤマビル7F Tel.(052)551-0440
 大阪営業所 〒556 大阪市浪速区日本橋4-2-20 コア日本橋ビル2F Tel.(06)644-5220
 福岡営業所 〒812 福岡市博多区博多駅東2-6-28 サンライフ第5ビル8F Tel.(092)471-1346
 製品に関するお問い合わせは、インフォメーションセンターへ Tel.(0423)44-0666(直通)

RX-505/RX-303 主な規格

トラック型式	4トラック・2チャンネル・ステレオ方式(録音・再生オートリバーシ)
ヘッド	RX-505:3(消去×1、録音×1、再生×1) RX-303:2(消去×1、録音再生兼用×1)
モーター	<テープトランスポート> PLLサーボモーター(キャプスタン駆動用)×1 DCモーター(リール駆動用)×1 <メカニズム> DCモーター(カム駆動用)×1 DCモーター(カセット反転用)×1
電源	100V 50/60Hz
消費電力	最大28W
テープ速度	4.8cm/秒
ワウ・フラッター	0.04%以下 WTD RMS、0.08%以下 WTD Peak
周波数特性	RX-505:20Hz~20,000Hz±3dB(録音レベル-20dB) (ZX、SX、EXIIテープ) RX-303:20Hz~20,000Hz(録音レベル-20dB)
総合S/N比	ドルビーCタイプNR on(70μs、ZXテープ) RX-505:70dB以上(400Hz、3%THD、IHF-A WTD RMS) RX-303:68dB以上(400Hz、3%THD、IHF-A WTD RMS) ドルビーBタイプNR on(70μs、ZXテープ) RX-505:64dB以上(400Hz、3%THD、IHF-A WTD RMS) RX-303:62dB以上(400Hz、3%THD、IHF-A WTD RMS)
総合歪率	RX-505:0.9%以下(400Hz、0dB、ZXテープ) 1.0%以下(400Hz、0dB、SX、EXIIテープ) RX-303:1.0%以下(400Hz、0dB、ZX、EXIIテープ) 1.2%以下(400Hz、0dB、SXテープ)
消去率	60dB以上(100Hz、0dB)
チャンネルセパレーション	36dB以上(100Hz、0dB)
クロストーク	60dB以上(1kHz、0dB)
バイアス周波数	105kHz
入力(ライン)	50mV/70kΩ
出力(ライン)	1.0V(400Hz、0dB、アウトプットレベル最大) 2.2kΩ (ヘッドホン) 12mW(400Hz、0dB、アウトプットレベル最大) 8Ω
早巻き時間	約60秒(C-60)
大きさ	450(巾)×144(高さ)×300(奥行)mm
重さ	約10kg

RX-505 Unidirectional Auto Reverse Cassette Deck ¥188,000

RX-303 Unidirectional Auto Reverse Cassette Deck ¥158,000

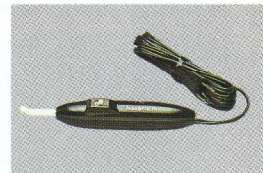
オプションアクセサリ



ステレオヘッドホン
SP-7 ¥9,800



リモートコントロールユニット
RM-15 ¥6,000



ヘッドテープマグネタイザー
DM-10 ¥3,500

このカタログは昭和58年11月現在のものです。